

転倒転落予測AIシステム



電子カルテ内の看護記録を解析し 患者一人ひとりの転倒リスクを予測

高齢者の転倒・転落は、要介護状態・寝たきり状態や認知症の進行につながるだけでなく、死亡に至る危険性もあることから、その予防は医療機関における重要課題の1つです。半面、患者の高齢化、看護師の業務増などを背景に、現場ではその対応に苦慮しているのが実情です。

Corobanは、FRONTEOの自然言語解析AI「コンセプトエンコーダー Concept Encoder」が電子カルテを読み込み、患者の状態や看護記録から転倒リスクを評価。転倒・転落の発生する可能性のある7日前にアラートを発出します。

医療スタッフの負担を増やすことなく、従来の転倒・転落リスクアセスメントシートと同等の精度での予測し、患者の安全と看護師の業務負担軽減に貢献します。

(日本転倒予防学会推奨品/特許登録番号:特許第6652986号)

Corobanの概要





Corobanの特徴

- 看護師の業務負担を増やすことなく、電子カルテに日々記録する看護記録を用いてリスクを解析します。
- AIの活用により、アセスメントにかかる時間・手間の短縮が期待されます。また、個々の看護師の経験・知識に左右されない評価の標準化が図れます。
- 転倒・転落リスクの高い患者を適切に予測することにより、必要な人にタイムリーに必要なケアを提供できます。

個々の患者の転倒・転落リスクを2つの機能で可視化します

患者ごとのリスク変動を経時的に表示

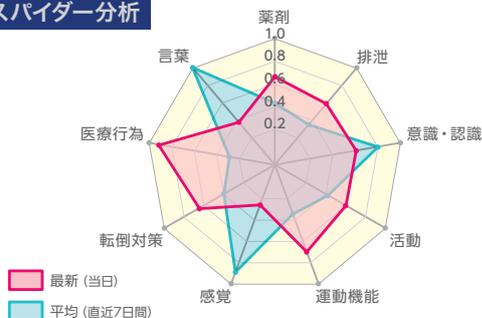
転倒・転落リスクの日々の変化を時系列で確認することができます。



判定・予測メカニズムを可視化

どのような状況下に転倒リスクが存在するかを、9つの指標に分けたチャートで確認することができます。

スパイダー分析



転倒転落に重要な9つの指標

- 1 薬剤 …… 睡眠剤や転倒リスクのある副作用を持つ薬剤
- 2 排泄 …… 尿・便失禁、頻尿、トイレ介助など排泄に関連
- 3 意識認識 …… 認知症や判断力・理解力・記憶力低下など意識・認識的障害に関連
- 4 活動 …… ふらつきがある、車椅子・杖・歩行者を使用、移動介助などADLに関連
- 5 運動機能 …… 麻痺・痺れ、骨・関節の異常など身体的障害に関連
- 6 感覚 …… 視力・聴力・平衡感覚障害や痛さ、だるさなど体性感覚に関連
- 7 転倒対策 …… ベッド柵や離床センサーなど転倒対策に関連：転倒リスクの結果
- 8 医療行為 …… 処置、手術に関連：患者の状態が変化
- 9 言葉 …… 患者の性格や特徴、精神状態に関連

Corobanの開発

2015年にNTT東日本 関東病院と共同研究を行い、2019年よりエーザイ株式会社とともに医療機関への販売を開始しました。2020年1月に特許庁より特許権(特許登録番号6652986号)を取得し、同3月、日本転倒予防学会推奨品認定。2022年より介護記録による解析も可能となりました。

※ 本システムは医療機器ではありません。本システムは転倒・転落のリスクを予測するものであり、医師・看護師の判断を意図するものではありません。

